

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 'グループホーム 藤野の社 つぐみ'.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for '特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット'.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム藤野の社では、グループホーム単体事業として、平成28年10月にオープンいたしました。閑静な住宅街に周囲の果樹園からの鳥のさえずり、リンゴ畑やサクラの木、さらには藤野周囲の山々が望むことのできる環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな藤野の地に、運営法人は3事業所目のグループホームとして「藤野の社」を開設し、5年目を迎えている。バス停から徒歩5分、衣料品店、スーパー、金融機関など生活圏に位置する閑静な住宅街に在り、隣接している小学校の子供達との交流は利用者に活力と笑顔を引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	であい・ふれあい・支えあいの理念のもと、利用者様一人一人に寄り添ったケアを実践している。今年度のユニット目標「チームワークをとうろう」を掲げ、利用者中心の生活を重視するよう意識付け、日々実践に励んでいる	法人理念である「であい・ふれあい・支えあい」を根幹とし、ユニット毎に毎年目標を策定し、理念の具現化と共通認識に努め、カンファレンス時にはケアを振り返り評価し合うなど、利用者の視点に立ったチームケアで理念の実践に取り組んでいる。新人研修でも理念の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には小学校があり、日課のお散歩や、テラスから登下校する学童との触れ合いがある。町内会行事の参加も行いながら関係が築けていたが、今年度はコロナウイルス感染予防にともない、外出の機会が減っているのが現状。	事業所は地域行事には積極的に参加するなど、社会性を大事にしている。隣接している小学校とは交流が深く、昨年は総合研修の受け入れや学習発表会に招かれている。コロナ禍でも感染予防対策の徹底を図り乍ら、現況に応じて体操ボランティアを受け入れ、利用者の残存機能維持やストレス発散に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は当管理者が、区内のGH代表として、地域ケア推進会議に参加させていただき、地域の課題に取り組みながら、認知症の専門職として意見交換を行い、情報共有を行った。また、藤野地区の高齢者事業所連絡会(ふじネット)においても、事業所同士が主体となれるよう、尽力しているところである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、コロナウイルスの感染予防の観点から、2回ほど書面会議を行った。参加いただいている関係者からの意見も頂戴しながら、議事録を作成、現場に反映できるよう努力をしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催しているが、コロナ禍により一部書面会議の月も有り、参加メンバーには事前に意見や要望など聞き取り、議事録を作成している。事業所運営の詳細な報告やコロナ感染症対策に加え、地元高齢者の課題についても話し合い、解決に導くなど地域貢献の姿勢が窺える。家族の参加要請にも取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは常時配信されているホームページやメールを通じて情報共有し、必要時は相談できる環境ができています。区内では、地域包括支援センターや保健師などと、ふじネットなどを通じ、情報交換をおこなっている。	現在はコロナ禍で事故報告等の書類提出は郵送で行っている。また、藤野地区高齢者事業所連絡会も開催が中止状態にあるが、施設長は地区グループホーム連絡協議会の役員を担っており、行政担当者との情報の共有、課題解決に向けての協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が中心となり、年に二回の内部研修会を開き、事例検討会をおこなっている。また、日々のケアやかかわり方については自分たちの行っている行為が抑制や拘束に値しないか、振り返りをきるようアンケート調査や、日々の申し送りでの行動目標の唱和など、注意喚起を促す取り組みが行われている。	身体拘束適正化による指針を作成し、委員会の定期開催や外部研修の伝達研修、年2回の内部研修では職員のアンケート調査による課題や事例検討にてケアの振り返りや身体拘束の弊害について学び、抑圧感の無い支援に努めている。玄関の施錠や居室内センサー使用は家族の納得を得て実施している。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する不適切ケアの対応事例を挙げながら、これから取り組むべく課題に向け、スタッフ間で情報共有し、改善に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護といった議題に取り組む機会が少なく、内部研修に取り入れるなどし、全員が基礎知識をもてるよう学ぶ機会を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族にお会いし、十分な説明をしたうえで理解をいただいている。改定ごとに限らず、常にご家族との話し合いの場を大切にしながら疑問や不安など一つ一つ解決できるように心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置。利用者様には、普段の生活の中で、ご家族には、面会時などでご要望などお聞きし、カンファレンス・朝の申し送りにて情報共有している。また定期的に発行している新聞についても個別の欄を設けるなど、生活の様子がわかるよう工夫している。	事業所はコロナ禍にあっても利用者、家族の不安やストレスを出来るだけ軽減する様に、小まめに電話連絡を行い健康状態や様子を伝え、時には本人が電話口に出るなど配慮している。毎月のブログで暮らしぶりを発信し、3ヵ月毎の季刊誌では利用者個々の情報と写真を掲載し喜ばれている。利用者、家族の要望は申し送りノートで情報を共有し、サービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンス、個人面談時等、職員は運営に関する気づきや提案を述べて、管理者も参列し可能な限り反映できるよう努力している	今年度の目標「チームワークをとろう・同心協力創成」に沿って、職員は申し送り時や毎月の会議で協議し連携を図っている。年2回の人事考課では、個々の実績と努力を評価し乍ら得意分野を引き出し、向上心が持てる職場環境整備に努めている。代表者の訪問も多く、現場の意見や情報に耳を傾け、施設長と調整を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場のフロアーに赴いたり、茶話会を開催したり、入居者や職員の現場の声を聴きながら、管理者と連携をとり、働きやすい職場環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	早期離職防止に向け、新人教育には特に力を入れている。達成シートを使いながら、適宜自分の達成度の評価、また指導者との面談をおこなっている。既存職員においても、積極的に外部に赴いていただき、伝達講習として職員全体で情報共有するよう努めている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に根ざした施設づくりをモットーに藤野地区での高齢者施設の事業所連絡会(ふじネット)に積極的に参加。今年度においてはコロナウイルスの関係で開催には至っていないが、温存期間と捉え、ホームが地域に貢献できることを模索しているところである		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や関係機関から情報を頂きながら、入居者の取り巻く環境をよく理解したうえで、関わるよう努力している。入居前にはカンファレンスを開き、情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日翌日には必ずご家族に日中、夜間の様子をお伝えすることで、ご家族の不安軽減に努めている。加えて、初期段階ではご家族との情報交換は欠かさぬよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在事業所でできることを明確に説明するように努め、他サービスの活用方法なども情報提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝はコーヒータイムを設け、利用者、職員が打ち解けあいながら談笑する場面があり、一方的な介護にならないよう心掛け支援しているとともに、できることの参加を増やし、一緒に支えあう環境づくりを意識している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時は、ご本人の近況、普段の生活の状況をお伝えし、把握して頂いている。また、生活の様子をブログや新聞を発行し御家族様にお渡ししている。中々面会に来られない方でも日々の様子がわかるとの事で好評を得ている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前自宅訪問ではお部屋の環境を十分に観察し、入居時には同様のしつらえを行えるよう努力している。入居後もご家族のみならず、ご本人の馴染みの友人なども気軽にご面会できる環境が整っている。	現況では面会も外出も禁止状態にあるが、以前は家族、親族、趣味仲間の訪問を受け歓迎している。利用者からは特に要望も無く、電話で声を聞き合ったり、手作りの暑中見舞いハガキを家族に送るなど、出来る限り関係を継続させるための支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や症状を把握し、席の工夫や、職員が介入するなどしている。また、レクリエーションや、家事などを通じ、輪に溶け込めるよう支援している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、ご家族が来訪していただき、介護の相談次応じたり、近況の報告や他入居者との交流がもて入るよう支援したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努めているが、十分とは言えない。本人の気持ちを受け止め、尊重しよりよいケアにつながるよう支援している。	言語化や執筆が可能な利用者が多いので、関わりを多く持つことを心がけ、職員は利用者と同目線を合わせて会話し、表情を見て気持ちの理解に努めている。入居時には家族から多くの情報を聞き取り、本人の望む暮らしを支援している。	人生の終末期に向け、利用者の尊厳を追求しながら、より良い最期を迎えるための思いや意向を聞き取る機会を工夫し、都度心の変化等を記録に残す事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしシートを使用して、ご本人の今まで生きてきた生活歴、ご家族などからも聴取して生活支援に役立たせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員を担当制にして、個々の状況の把握に努め、カンファレンスなどを通じ情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、各担当となった職員が、月ごとに経過を把握したうえで検討事項を話し合っている。	利用者個々に担当職員を決めて、日々の状況把握に努め、毎月モニタリングを行い、検討課題を抽出している。本人、家族の要望を踏まえ、カンファレンスにて協議、情報の共有を図り、計画作成担当者が現状に即したケアプランを纏めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化について共有出来るように、記録への記載はできているが十分とは言えない。情報の共有は申し送りやカンファレンス、その都度現場で話し合いながらプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同建物内の家庭菜園の収穫、栗やくるみ拾いの実施、地域の認知症予防教室に参加する等、安心して満足し本人が主体となれるような生活支援作りを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の認知症予防教室には継続的に参加しているが、今年度はコロナウイルスの影響で、地域の行事はすべて中止になっている。それでも、体操ボランティアの方には、感染予防を施したうえで、不定期にお越しいただき支援いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療に加え、当社の看護師が病院、ご家族と連絡、相談を通じ連携をとっている。他科受診が必要なケースにおいても、必ずご本人の意向を確認の上で、ご家族へ連絡、許可を頂いて受診するようにしている。	利用者全員が月2回、協力医の往診を受けている。専門医への受診は看護師でもある施設長が同行支援し、医療機関との連携、家族への報告、日々の健康管理まで行き届いている。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師が利用者様や介護職員より情報を入手し、いつでも相談できる環境を作っている。受診が必要な時は急変以外、必ず家族に確認をとって出かけるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院時は医療機関と連携をとったり、職員が直接病院に赴き状態把握とご本人の不安軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居前に重度化の指針は説明している。常時医療の対応が必要な状態になった場合は、できる範囲での対応はさせて頂くことを説明。一方でホームでの対応にも限界がある旨も説明している。終末期のあり方については、主治医やご家族と十分協議したうえで、意向を確認するようにしている。	重度化に対応した医療連携体制指針を整備し、契約時に事業所で出来る事、出来ない事も含めて説明し同意を得ている。重篤時には医師の判断に基づき、終末期に係る話し合いを関係者間で持ち、現時点でも様々な事に配慮し乍ら、本人、家族の思いに沿った看取り支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備を行い、職員個々が対応できるようにしている。今後は内部研修の中に、実戦形式の訓練も取り入れていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行い、避難経路の確認、消化器の場所や使い方などは全職員で共有している。また、災害用備蓄に関しても定期的に見直し、検討をしている。	防火設備会社の指導の下に、夜間想定火災避難訓練を年2回実施し総評も得ている。コロナ禍で住民参加は難しい状況だが、通常は協働関係の下に訓練が行われている。水害時の広域避難場所である小学校までの移動訓練で気付いた課題を運営推進会議で話し合い対策を協議している。非常用備蓄品も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守りながら、支援に心がけているが、職員の津護符に合わせた声掛けやh支援が時々ある。自分の言動を振り返り反省をすることもある。プライバシーを損ねるようなことを、大きな声で周囲に知れ渡るように話すことも時々ある。	職員は接遇研修でケアの基本を学んでいる。介護時に後方から声をかけない、幼稚語を使わない、名前は「さん」付けなど、尊厳を守り、利用者の目線で物事を考える大切さを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿って、自己決定ができるように声掛け、支援を行っている。相手の気持ちに立って支援することもあるが、職員の思いが先になることもある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則的な生活リズムは概日リズムを整える意味では必要と考えている。その中でご本人が今まで作り上げられた生活ペースも尊重し、ご本人の意向も踏まえながら支援するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は日々の生活で行っている。行事ごとなどでは受け持ちスタッフが中心となり、ご本人と一緒に服装選びや化粧支援など行っている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方には、食材の切込み、自立度が低い方には簡単な作業をお願いする等、個々のレベルに応じた作業をスタッフと共に行っている。食器洗いは積極的に行っている方もおり、洗浄が不十分であっても後から職員がさりげなくお片づけをし、ご本人が満足して行えるよう支援している。	日常食にパン食や麺食を加えて変化を楽しみ、食事形態も工夫している。誕生会、季節行事、会食を企画し、職員手作りの豊富なメニューは、趣きある器に彩り良く盛り付けられ、利用者の食欲を掻き立て、味わう毎に笑顔が増え、満ち足りた時間となっている。おやつ作りや食器洗いなど、利用者の力や希望を引き出し、満足感に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のレベルに応じ、食形態の工夫を心がけている。水分摂取が困難な方に対しても、いろいろな品を工夫して提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施、自立度が低い方には特に舌苔の付着について着目し、支援を行うようにしている。歯や口腔内に異変があった場合は歯科往診を依頼し、定期的なチェックをしていただいている。必要時は口腔ケア管理指導士の助言も頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行動やパターンを把握し、利用者のシグナルを見極め声掛け、誘導を行っている。おむつ対応の方についても可能な限りトイレでの排泄援助を行っている	排泄の自立者が多く、利用者の殆どがトイレ排泄が可能である。個々の排泄状況に応じたトイレ誘導、薬の調整、夜間のポータブルトイレ使用、下着や衛生用品の種類等の検討など、見守り乍ら排泄の失敗を無くす工夫に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後には必ずオリゴ糖入りのヨーグルトを提供。便秘気味の方においては水分摂取の推奨、また下剤などで調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週に二回の入浴を行っている。お一人お一人のご希望に添えるよう、拒否がある場合は、時間や日程を変更し、本人本位の入浴支援を行っている。	曜日は決めているが、利用者の要望も聞き入れて週2回の入浴態勢を整えている。湯船に入る事を基本とし、状態によって足浴、清拭も行っている。一番風呂の要望や湯加減の調整、好きな音楽を流し気分をリラックスさせるなど、楽しい入浴に努めている。皮膚チェックも欠かさず行い、入浴時の様子を書き記している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースに合わせてもらえるよう、夕食後はゆったりと過ごしていただいている。日中においても傾眠がちな方については、夜間に影響がない程度に適宜休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり各々の入居者さんについての内服状況は、情報をおろしている。最低でも受け持ちスタッフは対象者の服薬の種類、副作用について理解していただくよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暖かい時期には散歩やテラス、外庭での外気浴する機会を設けリフレッシュを図っている。外庭の菜園、花の水やり、おやつ作り、食器洗い、食器ふきなど、普段行っていた日常生活の一部を少しでも取り入れて頂くよう支援している		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルスの感染防止の観点から、マスク着用での周囲の散歩と途中下車なしのドライブ外出を基本としている。その際も最少人数にとどめ、密にならないような感染防止策をとっている。	職員は、巣籠りの状態ではストレスを蓄積し易くなることを懸念し、コロナ禍にあっても感染予防対策を極めて、近隣周辺の散歩やドライブで車中からの紅葉狩りなど支援している。気候の良い時期は、利用者個々にベランダでの茶会や日向ぼっこ、敷地内の畑作業や栗、胡桃拾いを楽しみ、陽射しや吹く風に季節を感じ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はホーム小口金庫で管理している。自己管理できる方においてはご家族の承諾を得たうえで管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族の対応の範囲をお聞きし、希望時には都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の共用空間については前年通り、周囲の景観で十分に獲得できると考えて、絵画などの大人のしつらえを目指している。、観葉植物などを取り入れ解放感のある環境作りに努めている。	暖炉のあるリビングは、窓辺に映る豊かな自然と共に、心安らぐ贅沢な空間となっている。大人の設えに拘り、絵画や観葉植物を配置し、季節のクリスマスツリーも飾り、落ち着いた中に温もりと家庭的雰囲気を感じさせている。ラウンジやテラス、図書スペースを設けて、一人ひとりが自由に寛げる居場所作りに取り組む、癒される暮らしを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥の出窓には図書スペース、ラウンジも設け他者からの視線を遮断してつるげる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人、ご家族と打ち合わせを行い、私物を持ち込んでいただいている。なじみのあるものだけにこだわらず、いかに利用者様が寛ぎや安心感をもてるかを、相談しながら環境整備に取り組んでいる。	部屋のクロスは3色の色違いで自室が認識し易く、クローゼットが設置され、介護用ベットも用意されている。自宅に近いレイアウトにするため馴染みの家具や調度品を持参頂き、家族写真や自作品を飾り、鉢植えなどの観葉植物も置き、利用者個々の安心の空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の分かる事、わからない事について観察しながら本人の立場にたって対応するように努めている。		